



Main Street Management Research L.L.C

特集 ● アメリカ中心市街地再生「メインストリート・プログラム」の秘密

寄稿 公民連携のNPO 組織が2000超の街をよみがえらせた！！ アメリカ・ 「メインストリート・プログラム」の秘密

アメリカにおける「メインストリート・プログラム」は、日本で類似の事業を探すとすれば「中心市街地活性化事業」にあたるかもしれないが、イーコールではない。長年、同プログラムに注目して研究してきたさいたまNPOセンター理事の松本博之さんに寄稿してもらった。



1. アメリカのダウントウンの疲弊と メインストリートプログラムの誕生

「メインストリート・プログラム」は1970年代、中心市街地の疲弊に悩む中西部の地方都市から始まりました。中西部の多くの都市から相談を受け、調査に入ったのが非営利法人ナショナル・トラストでした。元々の問題意識は、中心市街地の疲弊によって歴史的建造物が壊され又は放置されていくというものから始まったからです。ナショナル・トラストは3つの地方都市を選び、3年間のパイロットプロジェクトを実施し、次のような結論に達しました。

歴史的建造物を保全し、活用していくためには、「地域の経済的価値を高め、地域の内外から投資を呼び込む戦略が必要である」こと、そして具体的に4つの取組みを包括的、同時並行に行うことが肝要であるとし、「4ポイント・アプローチ」を定めて、活性化事業のフレーム・ワークとしたのです。名称を「メインストリート・プログラム」としました。それぞれの地方都市の中心市街地の個性を維持しブランド力を高めるため大規模開発（大型店舗）に頼らない、歴史的建造物の保全・活用を旨とし、今ある地域資産を有効利用し（Assed Based）、公民連携を中心とする地元の人たちのやる気や熱意（Community Based）を柱に作られ

たこのフレーム・ワークは、その後、中西部のみならず全米各地の州、地方都市で取り入れられて行きました。そして40年を超えた今、同時代に取り組まれた様々な中心市街地の活性化の戦略の中で唯一、現在も存在しているのです。

「4ポイント・アプローチ」とは

- ① Sustainable Organization：持続可能なまちづくり組織の構築
- ② Effective Promotion：効果的な街のプロモーション戦略
- ③ Quality Design：街の資産を活かした品格ある歴史的景観の整備
- ④ Economic Vitality：地域経済の活性化施策の実践

2. 2,000超の中心市街地を再生させた メインストリート・プログラム

紙幅の関係で、メインストリート・プログラムの詳細なシステムの説明は割愛しますが、その概要は次のとおりです。「4ポイント・アプローチ」を基幹とする戦略の中心に“メインストリート・プログラムの総本山”とも言うべき運営組織でシカゴにあるNPO法人、「メインストリート・アメリカ」をトップに、各州でこれの管理・運営にあたる「コーディネーター組織」、そして各地で活動している組織（大半がNPO法人）が、国～州～地域と、ハッキリとした目的と役割分担の下で事業がすすめられて、

現在40州とワシントンD.C.やボストンと言った都市部などで「公認の中心市街地活性化戦略」となっています。

そして「メインストリート・プログラム」を持続可能なものとし、各地での活動の品質を均一にし、ブランド力を維持するため、メインストリート・アメリカでは、「4ポイント・アプローチ」に即した一定の条件をクリアし、各地のコーディネート組織が活動内容等を審査し、認定した地域にしか「メインストリート・プログラム」を名乗ることを許可していません。そういう意味では、「メインストリート・プログラム」を名乗れる地域は、積極的かつ効果的に中心市街地の活性化に取り組んでいるものとお墨付きを得ることとなり、様々な“特典”の恩恵に浴することになります。



ワシントン州メインストリート・プログラム総会の様子

水害をもたらした川を整備した
フレデリック市の親水公園(左)
同市メインストリート・プログラ
ムを担うNPOメンバーたちと松
本氏<右端>(右)



3. メインストリート・プログラム訪問記

私は10月中旬から(16日間)にかけてアイオワ州、ワシントンD.C.、メリーランド州そしてワシントン州を訪問し、州政府の担当者や実践している各地を訪問してきました。そのいくつかを紹介します。

(1) ワシントン州のメインストリート・プログラム総会

「メインストリート・プログラム」のワシントン州の年次総会に参加しました。総会には関連した多様な分野でのセミナーを中心に盛りだくさんのニューで3日間開催されるメインストリート・プログラム関係者のお祭りでもあります。メインストリート・プログラムにおいてネットワークの構築は重要な要素としていて、1年に1回関係者が一堂に会し、州政府の担当者との情報交換や成功・失敗体験の共有、そして“頑張った地域”の表彰などにより次年度への活動のモチベーションアップにもつなげています。

(2) 現場訪問：フレデリック市(メリーランド州)

フレデリック市はワシントンD.C.やメリーランド州最大都市ボル

ティモア市へクルマで1時間以内という“ハンディキャップ”を抱えながら、多くの歴史的建造物を利活用し、文化、商業そして地域行政の拠点として輝きを増しています。1990年代に近郊から流れる川の氾濫によって中心市街地の大半を浸水させたという惨事から見事蘇えり、氾濫を起こした川は親水公園と整備され今や中心市街地のイベント会場として大きな魅力の一つとなっています。周辺には高齢者用専用住宅やレストランやクラフトショップなども展開している。

これら事業の中心が「Downtown Frederick Partnership (NPO法人)」で、事務局長のカーラさんを始め4人の女性スタッフ(全員が有給常勤)で切り盛りしています。行政や地元経済界を中心に幅広い分野とのパートナーシップで、年間40週で様々なイベントの開催し、年間収入約2億4,000万円(2022年7月期)を使い、

中心市街地の居住人口増、新規起業の支援、観光収入の増加などに取り組んでいます。

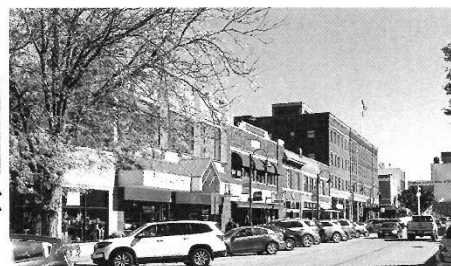
(3) 現地訪問：エームス市(アイオワ州)

エームス市はアイオワ州の州都デモインからクルマで1時間程度の学園都市です。この中心市街地の活性化は多くの他の地域と違って地元商工会議所の傘下のNPO法人が担っています。商工会議所の活動は当然のことながら中心市街地だけではありませんが、彼らの得意とする「新規起業支援」を中心に取り組み実績を上げています。バーラウンジのある書店、キッチンのある日用品店、元煉瓦倉庫のスポーツ・バーなど30代の店主が生き生きと仕事をする姿に感動しました。

さいたまNPOセンター副代表理事
メインストリート・マネジメント・リサーチ合同会社
代表社員 松本 博之



エームス市メインストリート・プログラムを担うNPOメンバーたちと松本氏<左から2人目>(上)
エームス市の中心街(右)



メインストリート・マネジメント・リサーチ合同会社

〒330-0802 さいたま市大宮区宮町1丁目5 銀座ビル7F TEL:048-700-4411 E-mail: matsumoto@msmr.info HP: www.msmr.info

元ぶぎん地域経済研究所 取締役研究
主幹の松本博之氏が「メインストリー

・プログラム」をわが国に広めたいと
いう思いから2021年7月に設立。

2023年度は「メインストリート・プログラ
ム」の現地ツアーなどを企画中。

